

○末久真理子*・山田知里*・三木幹子**・綾田雅子* (*共立短大, **広島女学院大)

＜目的＞著者らは布特性と婦人服のシルエットの関係について検討してきたが、実物大の試料を何種も作成し、シルエット形状計測や官能検査によりデータを採取するという従来の方法では時間と経費を消費するという問題点があった。そこで本研究では、取り扱いに制限のあるカーテンを取り上げ、CGを用いて生地見本をカーテンに合成した画像を作成するというシミュレーションを行い、それらの画像の再現性についても検討を行った。

＜方法＞業者向けのカーテンカタログからイメージの異なる10種のカーテン生地見本を選出して実物生地サンプルを作成し、その試料をスキャナーを用いてパソコンに読み込み、プリンター出力したものを画像生地サンプルとした。また、カーテンを取り付けた部屋の写真を1枚選び基本の部屋写真とし、アパレル専用CG UP MODA (丸紅エレクトロニクス社製)を用い画像生地10種を部屋のカーテン写真中に合成しカーテン合成画像を作成した。実物生地サンプル、画像生地サンプル(実物生地を画像出力した試料)、およびカーテン合成画像30種を用いて、カーテンのイメージを表す形容語対20個に対する5段階尺度での官能評価を行った。

＜結果＞実物生地試料、画像生地試料およびカーテン合成画像の評価値について因子分析を行った結果、因子の内容に一致する点が多くみられた。差の検定を検討した結果、3者にイメージの差がなく、CG画像による布のイメージの再現が可能であることが確認できた。以上のことから、特殊な性質を有する布地を除いては、グラフィックソフトを用いて、生地画像をカーテン上に合成しシミュレーションすることの可能性が認められた。